

最新鋭のレーザー白内障手術装置「LenSx(レンゼックス)」をはじめ、最新の治療機器を用いて正確かつ安全で低侵襲な手術を提供(写真は札幌かとう眼科)

白内障とは、年齢を重ねることで誰にでも起こる、水晶体(カメラのレンズにあたる部分)が濁る病気です。日常生活に支障がなければ経過観察で構いませんが、徐々に進行していくため、かすんで見えづらくなったり、まぶしさが耐えづらくなったりしたら手術で治療します。

手術は、麻酔後にメスで角膜を切開し、そこに器具を挿入して水晶体表面を包んでいる前囊(ぜんのう)と呼ばれる袋を円形に切開します。その後、濁った中身を超音波で細かく砕いて吸い出し、前囊の中に眼内レンズを挿入します。角膜切開の幅はわずか2・4mm程度で、手術時間も一般的に片眼につき10分前後と短

時間で済みます。

さらに最近では、レーシック手術の技術を応用したフェムトセカンドレーザーを使った白内障手術が登場しました。機械の設定などに時間を要するため手術時間は20分程度に伸びますが、従来の手術に比べ、より安全で正確な治療が可能です。当彩光会グループでも、本院の札幌かとう眼科で手術を受けていただくことができます(自由診療、左上の写真参照)。

眼内レンズについても最近の進歩は著しく、通常の単焦点レンズに加え、乱視矯正機能を持ったレンズや、多焦点レンズなど、高機能なものが登場しています。特に多焦点眼内レンズは、遠方だけでなく中間距離や比較的近方までさまざまな距離が見やすくなるため、仕事やスポーツ、趣味など、アクティブに過ごされる

方に好評です。

ただし、多焦点眼内レンズでも、手元から20〜30cm程度のかかり近方は少し見え方が落ちる場合があったり、光っている物を見た時に強くまぶしさを感じる、光が輪状状にじんで見えるといった、ハロー・グレアと呼ばれる現象が生じたりする場合があります。万能というわけではありません。

白内障手術希望の患者さんに対しては、その方のライフスタイルも考慮しながら、単焦点、多焦点レンズそれぞれのメリット、デメリットを説明したうえで選んでいただいています。単焦点眼内レンズは保険適応です。多焦点眼内レンズの大半は選定療養(手術や検査の費用は保険適応、眼内レンズの費用は自己負担)、一部のレンズは自由診療となります。

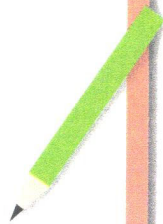
さらに、当院と札幌かとう眼科で

は、白内障手術支援システムの「VERION」と「ORA」という機械も導入しています。VERIONは乱視矯正レンズを使用する際、最も乱視が減る軸にレンズを挿入するよう、術中にリアルタイムでガイドしてくれます。ORAもリアルタイムで眼の屈折情報が得られ、最適な眼内レンズの度数を提案してくれます。これにより、術前に想定した度数と、実際に挿入した後の度数の誤差の低減につながっています。

このように、新たな眼内レンズやデバイスが次々登場し、白内障手術は長足の進歩を遂げています。

白内障

新たな眼内レンズや手術機械の登場で
多彩な治療が可能に



竹森 智章氏

院長

2005年神戸大学医学部卒業。札幌医科大学眼科入局。道内主要病院勤務を経て、17年すぎ眼科副院長、18年5月より現職。日本眼科学会専門医。日本神経眼科学会認定神経眼科相談医ほか



えにわ眼科

恵庭市相生町1-8-1 いざりえ恵庭3階
TEL 0123-32-6666